

和唐珍解

分五寸三 コ ヨ 紙 表
寸 五 テ タ

寸 三 コ ヨ
分三寸四 テ タ 梓文本

和唐珍解序

かねて長崎は

繁華なところ

で。すぐれて

よい所と承わ

る。なかんづく就中。丸

川寄合町は。

よい女郎多く

衣裳などもよ

いと申す。そ

の上ものいり

もほか／＼よ

和唐珍解序

素聞崎乃繁華之地

景勝之郷也就中丸

山寄合之間名妓多

やまよりあいまりハよびよりふ

リ心やすひげ
 にござる。わ
 れ等一度はま
 いて。遊ん
 で見たうござ
 れど。途に遠
 いに。いたし
 方がござらぬ
 ところに。此
 度唐來三和和
 唐珍解といふ
 草子を作られ

行路無奈今般唐來 ビニ ロウ ウ、 ナイ キ、 バニ トニ ライ	們久思一遊焉万里 モン キウ スウ イ ユウ エン ワニ リイ	比他三估一估也我 ヒ ライ サン クウ イ クウ エハ ゴウ	少而粧扮好了客貨 ヤウ ル、 チヤン バン ハ、 ウリヤウ ケ ホウ
--	---	--	--

たから。これこそわれ等がおほしやわせ大仕合と。く

りかへし見てはうれしがり。

くりかへし見

てはうれしが

り。朱樂館主

人序す。印

三和作和唐珍鮮戲

文是私的大造化

一閱歡一歡未樂館

主人序



序

夫支那の地まはり漢に遊女ありとうい
ふは二の貝多羅は街賣女色とかきの
足田の二つに床柱よりあそびを
はなれし傘を萌黄さうに切つて出合
のつ穴みえと五林七代五代参地

よりとつ穴みえと人代より伊勢
源氏の物語も指切髪切のまつて二条
后の壁においらの意を代へはし今や
あな女より人よりとわいせし後の
衣裳をきき大坂の揚屋で遊ぶ自由
自在の樂といふ時あひく我々の

序

夫支那の地まはり漢に遊女ありと
うたひ。天然の貝多羅は街賣女色とかきの
めすわが日本の二ばしらは床柱にもよ
り給はず。蒼海原の青傘に萌黄さなだの
紐といて出合のひとつ穴にえやと天神
七代五代参。地色ばかりをかせ給へば。
人の代となりて伊勢源氏の物語にも。指
切髪切のまことなく。二條后若紫もおい
らんの意氣地心えなし。今や京の女郎に。
江戸のはりをもたせ。長崎の衣裳をきせ
て。大坂の揚屋で遊ぶ自由自在の樂をす

大一座、嗚り、月のまん丸山、むすい
 卵の四角、又字と香来参和とる中位
 形、あ、ゆも、整ふ、かき、の、外、か、と、
 さら、新、給、と、あ、と、大、あ、と、性、
 抱、我、諸、人、より、あ、の、か、

四才山人


る時にあひて。和漢の人の大一座。毎日の
 月のまん丸山に。むすび卵の四角な文字
 を。唐来参和といへる中位な色男。あらゆ
 る贅にかきねの外。ふらりとさがる瓢箪
 で。鯰をおさへた大あたりは。慥なる物か
 ら我等諸人に。たつものならし。

四方山人



和唐珍解

唐來參和著

雲想衣裳花想容。清平調の詞の華。花艶とて不如容。人老て不如花。華あれば人。人あれば華の都も余所ならぬ。仇の浮名をなが鱗の色の丸山角とれて。和らぐ國も異國もかわらぬ戀の道芝を。喇叭哨哨。吹立てそりぞめきの華人。旅館の夕の徒然に。通詞諸とも打連て。うかれくるわの娼家人。是客中の客ならん。

大明奉詔大從 李顯天 你們可回去。從者 領旨。李明朝早些來。我在這裏等候。快些去了。不可路上住脚。通詞和田藤内 多勞多勞。從去了。と將へかへりか。你們等一等。從有何るをよびとめ。

貴幹 李休要賭錢。龜崑崙奴有些事。故。不要去。龜崑崙奴 領旨。國明日再來迎接。と皆へかへるくる。若者は居らんか。わかひ者。若者ハイ。どつつさまだ。どなたさまだ。是は藤内さま御案内とは。きよいぞと飛下りしやれる。李顯天 沒規矩。はこれを見て腹をたちて。若ひ者。兼てそういつて置に。是はどふしたものだ。唐の客人には。そのやうにしやれば腹をたつ。翻身便拜すといひ。又撲地拜下なといつて。天窓を地へはりこまねへければ。合點せぬよ。若。ホンニそうで御ざりました。是は大きに不調法。李

得罪了我。饒不得他。苦哉。請息怒。他的不是了。李狡媚的人。下次再須要小心些。若。マア二階へ御あがりなされませ。請上來坐。屋中有蜘蛛網。蜘蛛の巢だらけではないかとおつしやる。若。是はまた惡口ばかり。まづ皆様御通りなされませ。崑崙奴。你跟著我來。と皆へかへるくる。若。李君且上面坐了。李。怎敢。今晩は能ふこそいらつしやりまし。初相見。始であふたとおつしやる。若。ハイはありがたう御ざります。申ても。しかし通じますめ。藤さまよろしく御うけを。ソリヤアとふでもない。夫よりちと談る事がある。ちよつ彼處へ来てもらおふ。

哥哥、那裡去。[圖] 有些事情。[圖] 去。
 了來。[圖] 若者、むかひ。[圖] コレ、外の事で
 もないが。けふつれてきた唐人は、大明
 の李昭天といふ金持だから。あいかた
 の女郎は、梅檀を出してへものだ。そこ
 いらは手めへも。ソレよしか。[圖] しか
 し。ちとみかたみぐるしいね。[圖] コレ
 家春をいわたしやんな。手を出さつせ
 へ。[圖] 分はつむ。[圖] コレハありがたう御ざ
 ります。シテおまへさまのは此間の通
 り。[圖] 新造さ。[圖] 若。よふ御ざりま
 す。何事も方寸にありで御ざります。
 [圖] しんの頼みだせ。[圖] 太はこぼんも来る。先
 藤さん。お出なんしたか。[圖] 李個裡來。
 [圖] 爰へこひとさ。[圖] わつちやアいや。
 氣味がわるひ。[圖] 李。沒有可怕的事。
 マア側へいつてみや。[圖] 李。椒住他。[圖] 左

ヲ、こわ。エ、モウ。[圖] 爲甚去。使不得。
 つく。[圖] アレよしておくんなし。いつ
 そ顔をなめさつしやる。[圖] 休要囉數。
 [圖] エ、モウうるさい。[圖] トふりきり。[圖] 休要
 跑脱。[圖] 姐妓面前。不可告知。の酒さか
 なを持き。[圖] 若。ちと召あがりまし。[圖] いか
 さま。[圖] 李。哥。喫一杯。[圖] 李。好。了。かた
 の遊女。[圖] 梅檀。どなたもよふ御出なんし
 た。[圖] 應。さついで御もつたいだね。[圖] 梅。ナ
 そうじやアおさんせんけれども。[圖] 李
 這箇杯兒。奉獻娘子。[圖] 李。此所和漢かわら
 事あり。[圖] 李。今日。嘉娘相見。[圖] 新。モシ。主。が
 なんとかおつせんせ。[圖] 應。はじめてお
 目にかつたと。おいらんへの挨拶さ。
 [圖] 若。どふでもからのお客さま方は御可
 嘸で御ざります。[圖] 新。こつちからも。何
 とぞ相應にいつておいておくんな

し。[圖] 應。せうち。初。接。高。風。不。勝。
 欣。躍。若。蒙。不。鄙。棄。感。謝。不。盡。
 [圖] 李。這般。殷。勤。折。殺。俺。也。[圖] 若。なん
 だか唐音と申物は。むづかし。そんな物
 で御ざります。[圖] 李。敢。問。娘。子。尊。名。
 應。喚。作。梅。檀。[圖] 李。青。春。多。少。[圖] 應。今。年
 二。八。[圖] 李。衣。裳。齊。整。容。貌。嬌。致。
 生。得。出。塵。[圖] 應。普。時。名。妓。數。一。數。二。
 [圖] 李。多。虧。得。名。妓。真。正。多。謝。得。緊。[圖] 應。恐
 なからあなた。ちとけんじませう。[圖] 應
 壯。客。奉。敬。一。杯。哩。[圖] 應。ソレ。二。葉。お。酌。を。し
 やな。[圖] 李。艾。李。滿。瀝。一。盃。[圖] 應。し。つ。か
 り。つ。げ。と。さ。[圖] 新。せん。て。へ。あ。つ。ち。の
 客。衆。は。酒。が。強。ふ。お。さん。す。ね。へ。[圖] 新。せ
 ん。頃。御。出。な。さ。れ。ま。し。た。朝。鮮。の。御。客。さ。ま
 は。ど。ふ。な。さ。れ。ま。し。た。[圖] 應。々。功。慶。子
 か。此。頃。は。寄。合。町。へ。斗。の。ぼ。せ。て。い。く

よ。主^{しゅ}なぞもお出^でなんせうね。藤^{ふじ}すいぶん折^{をり}ふしめへりやす。李^り娘子^{ぢやう}喫^く煙^{えん}。客^{きやく}から女郎^{ぢやうらう}へつけさしもおりがてへ。それおいらん。たばこを吞^{のの}とさ。新^{しん}よしなんし。そんなを言^いなんすな。藤^{ふじ}吸^す口^{くち}を折^{をり}て吞^{のの}と腹^{はら}をたつせ。藤^{ふじ}見^みつけなんせんから。よふおさんす。李^り藤^{ふじ}内^{ない}哥^か敬^{けい}你一^い盃^{はい}。藤^{ふじ}どふも此^こ酒^{しゅ}はちと甘^{あま}口^{くち}だ。是^この^こ子^こ。アノ供^{くわい}部^ぶ屋^やへいつて。くろんぼうにそふいつて。持^も参^{さん}の酒^{しゅ}があるはづだから持^もてきや。李^りアイ。若^わ只^{ただ}そふ斗^とでは不^ふ通^{つう}で御^ござりませう。藤^{ふじ}ホシニとういんでなければ幕^{まく}が通^{とほ}らねへ。いつたら。那^な箇^{かど}四^し角^{かく}酒^{しゅ}快^{くわい}些^せ將^{しやう}來^{らい}といふと。拿^な進^{しん}去^きとか。何^{なん}とか言^いつてよこすよ。李^りなぐ子^こがすきだとへ。新^{しん}ホ、い、ナニそふ

じやアねへわな。李^りそれだつても。おかしくつて。どふもいわれやせん。若^わユ、役^{やく}にたつねへ。唐^{たう}音^{おん}も何^{なん}もいらねへ。おれがいつて取^とて來^きよふ。ト立^たて行^い跡^{あと}へ。李^り青^{せい}柳^{りゅう}さん。蘭^{らん}なんだ。李^りたど。李^り青^{せい}柳^{りゅう}さん。おはいんなんし。李^りアイ。トそは。藤^{ふじ}さん。わつちが客^{きやく}人はなせ來^きなんせんへ。李^りム、吳^ご三^{さん}桂^{けい}か。けふ誘^{きざ}つたけれども。用^{よう}があるとしてこねへ。とによると跡^{あと}からこふよ。藤^{ふじ}たばこを吞^{のの}なんし。李^りアイ。李^り毛^{もう}唐^{たう}人^{じん}でも。アリヤア色^{しき}男^{なん}だから。がうてきにのぼせるの。李^りよしなんし。きぎな。藤^{ふじ}ハテそういひなさんな。あれも八九年^{はちくわんねん}も續^{つづ}てこつちへ來^きたらうが。此^こ國^{こく}の女^{にょ}郎^{らう}買^{かい}の馬^ばをりは。ソレおめへだは。よし。李^りか。あれも日本^{にっぽん}の言^ご語^ごを覺^{おぼ}へ。おめへも唐^{たう}音^{おん}をおぼへるほどの久^{ひさ}しい馴^な染^{せん}で。床^{とこ}のこんたんにも何^{なん}かざわかつて。書^か

合^{あは}をしようにといふものだから。ソレ一^{いつ}とをりじやねへよ。李^りどふだか。しりいせん。李^りナニしらねへ事^{こと}がある物^{もの}だ。アノ線^{せん}香^{かう}の匂^{にお}ひをかきしめるが。最後^{さいご}のすけ。李^り此^こ通^{つう}詞^じめがいわせておけば。コレから哥^かさん。そつから撲^くつてくんなんし。新^{しん}アイ。藤^{ふじ}ア、あやまつたノ。コレあんまりさわぐと。此^こ唐^{たう}人^{じん}がてれてゐるから。また機^き嫌^{けん}がわるひ。李^りナニ唐^{たう}人^{じん}にかまふ物^{もの}だ。李^り藤^{ふじ}哥^か不可^{ふか}挿^さ口^{くち}。喧^{けん}嘩^か得^{とく}緊^{きん}。李^り請^{せい}恕^{じょ}。李^り恕^{じょ}。ソレ見たがい。叱^{しか}れた。李^り俺^{おれ}的^{てき}性^{せい}兄^{けい}不^ふ喜^き歡^{かん}。聞^{きこ}動^{どう}。只^{ただ}喜^き歡^{かん}閑^{かん}靜^{じやう}。新^{しん}なんだとへ。李^りてめへに惚^ほれたとさ。新^{しん}くちをへエ。李^りサア青^{せい}柳^{りゅう}さん。一^{いつ}杯^{はい}吞^{のの}へ。ト盃^{はい}に唐^{たう}人^{じん}你^{なん}認^{にん}得^{とく}他^た麼^や。李^り我^{われ}竟^{けい}不^ふ認^{にん}得^{とく}に向^{むか}ひ。なんぢをこんじか。李^り他^た。李^り吳^ご三^{さん}桂^{けい}の妾^{めかけ}也^や。李^り敢^{かん}領^{りやう}尊^{そん}盃^{はい}。

咲けるツキスミレノツキ
 咲得緊サケトツギ
 新來的の在個裡シンライシキノアイニ 頑要則箇ガンヤウソクカ
 錦州さん爰であそべとさ。キンシュさん、ココでアソビマス。 錦アイイ
 若者酒をニホモノサケヲ持きたり。ニホモノサケヲモッテ 吾サア御酒をもつて参り
 ました。酒 ヲヤいかい事持てきなんし
 たねへ。解 その中に居るのはなんだだ
 ねへ。麴 こちらのは蠟蟬ロウセンこれが蛇ヘビ
 その次のは蛇ヘビ 毒ドクきみの惡ひワルイ。生て
 いすかねへ。麴 何こしらへ物さ。
 蛇ヘビウツリウツリウツリウツリ
 硝子透亮了好看セウジトウリョウヨクカン 此酒をマア
 呑なんすか。いやたノチ。呑ムモシアノ此
 事斗ふらそこといふと思ひしたら。
 天井の事もふらそこといふねへ。天井 善
 ナニばからしい。そりやアふな底は
 な。我我喫酒鍾ガガキウツネ 麴 酒を吞
 ふといふ。ちよくを出しや。吞ムアイど
 こにへ。麴 エ、この子もぢれつてへ。
 いつもの引出しにあるわな。吞ムアイの
 ト引出しより。こづぶを出し。唐
 にわたすと。さけをのみて。吞ム最好サイハク

人島をもつてお出なんしたかへ。藤小人嶋とは。新イ、エアイ、枕笥の引出しへかつて置いすからさ。奥一兩日内拿來了。新まただまなんすな。奥不敢説議。請勿生疑。至おいらは小人島も何もいらねへ。手長嶋になりてへよ。藤ナゼ。至高ひ所へ手かとどひたり。また酌や何かをするにいくからさ。奥少妓。是有件要相托之事。藤是ふたば。よぶせ。至エ。奥拿茶來。青お茶をあげや。奥温々の好。不要大熱。煎ぬるひがいとよ。至アイ。ト立て行。やりて。至ハイ内所から。藤從家竈出其妻。至リ藤さま。此ごろはすきと御出なされませんの。藤俗用にかまけてさ。奥常常壯健。藤おかわりもなしかとさ。至リハイありが

たふござります。至要與婆々陪話。至近付にならふとさ。至リハイどふぞこれからお目をかけられて下さりまし。至茶來。至ハイモシそこをちつと御茶を持てめへりました。藤どれ／＼爰へよこしや。至リ御膳はまだかへ。新イ、エ。至リ埒のあかぬ。どれいつてせつついて來よふ。ハイ後ほど。て行。至吳哥。一盃喫得大醉也好。至宿酒未醒。請免請免。至要和化拳。至這樣事无好。請李哥在對面坐則箇。至おいらは見ようや。至走開去。休要在個裏纏繞。至コレふた葉。もちつとあとへ下りやな。至李一五千兩。至無。至那裡了。至モシこればかりは日本のと。あまりちがはねへじやアおせんせんか。至せんたい唐土から來た物さ。

至我不敢當。至錯過了。氣苦不迭。此所へ若者しつば。至ちとそこを。至これ跡へさがらざるめへ。至衆皆個裡來。至どふも何もさしあげる物は御ざりませぬ。至調理好。甚麼東西。都好喫。至把官路當人情。沒什麼款待。有罪有罪。至半東感激。至李踏天。惹榮猪兒怎麼樣。至是大明了。至料理がいゝとつてはめるよ。今いつたタア、シンリヤウとは。こつちでいふ。日本だといふのと同じ事だ。至それは有難ふ御ざります。まことに何もあげる物は御ざりませぬが。その牛のあんかけが御馳走でござります。ふるせでは御ざりませぬ。至いかさまこれは新しそふだ。至牛兒煮了吃更妙。燒的滋味不好。至失陪請飯

本要喫。若鶏の血はそのちよくに御ざります。こちらの羊の油でござります。吳先生飯桶刺些。蘇又來弄舌。新モシ口のはたにまんまがついてゐやすよ。李講甚麼。新イ、エサ爰にまんまが。李越鑷越生。我也厭了這個鑷爰。蘇てめへがあごへ手をかけたから。髭の事だと思つてゐやつさ。李莊客吃一杯如何。因他是海量。李喫了。南和介どん。それ酒を呑なんしとき。若ハイありがたう御ざります。李發他。蘇ソ花をくださるとき。若はなとはありがた山櫻。しかしこれはなんで御ざります。蘇銀錢だよ。おれがほうへ持てきや。いつでも金と取かへてやらう。若ハイこれには有難ふござります。蘇コレこそこ

が例の通り三拜する所だ。若ホンニそうで御ざりました。こうかね。蘇ヲヤばかりしいなりだね。若ハ、ハ、ハ、ハ。若者リ辭儀をするひやうしたもよりあつ中ふんどしのまるめたるを落す。りとうてん手早く取あげ。李什麼了。南ヲヤ見なんし。此人はいもじを落さしたよ。南けしからねへ。若是はとんだ物をおとした。面す。李先生是什麼。因我也不知。藤内是什麼東西。蘇なんだノ。とつて聞にはおれもくたびれたぞ。日本頭巾。若アレ見なんじ。紐の結び目を口でくわへて解なんすはな。若是はどふもたまらぬ。穴へも入り度なつてきた。李好這一頂新頭巾。ぶりて。紐をあごの下。南ヲヤどふせうのふ。かぶんなした。蘇おれも言やうがないから。日本の頭巾だといつたによつてさ。

若モシ藤さま拜みます。お返しなさるやうにおつしやつて下さりまし。蘇いつそおかしくつて腹がいたくなつた。李這個頭巾甚麼價。錢賤則我也要買。蘇價金三兩二分。李價錢賤。蘇爲什麼。李奉獻大明皇帝。蘇わざはひも三年とやら。アノふんどしを買たがるせ。若是はとんだ事だ。シテ何になりませ。蘇國へ持ていつて。あつちの大王へ献上物にするよ。南いかな事でも。李我強買了。好好說一聲。蘇あれをむりに買といふが。堀出しといふものだ。いつそつて仕廻わねへか。若怎麼樣。准不准。蘇備細說知他。說道。現金賈不除的。李算還價錢。トふところより。三兩。要好杜費了錢財。蘇サア。若者此金

はやまわけたせ。若それでも。藤サカまふ事はねへ。そつちへマア金をばしまつておいたがい。新ハイ。新買着了利市。藤アレいつそ喜ぶはな。人をちやにしたせんきだ。藤ついでねへ。藤崑崙奴在那裡。來吃酒。藤いかさま。くろんばうめを爰へ呼んで。ちと酒をのませてさわがせう。藤なんぞ藝がござんすかへ。藤他是手藝極多。專做幫閑過日。藤何をしすへ。藤かるわざがきつい物だよ。藤是はついぞ見ませぬ。よんで參りませう。藤わつちがいいつてきいせう。ト立藤輕業ならむかふの舞臺でさせて。こゝから障子をあけて見なんし。藤それがよかろう。その三味せんをとつてよこしや。新アイ。藤煎個燭心の再明亮些。藤らうそくの心を

きれとさ。若ハイこゝいらへ置ませう。藤餘外有什麼客人。若太拘禮。我要辭了。不敢去。藤アレさつちではござんせんよ。いつそ眞黒だから。どこに居さつしやるか。知れねへ。藤那里那里。黒地裏。是個難走。藤一所に來なんし。サアはいんなんし。藤有何事情。來來喫一杯。藤感激不盡。藤ぐつと大きな物で。あをらせるが。眞儘着飲得。眞個大海量。藤はやく輕業をさせて見なんし。藤マア跡でさ。かかねてあがれ。ソレお酌。藤異様好看。藤你做輕捷。藤領旨。藤藤内は三味せんをひく。忪くけんぶつ。藤娘子們。這技最有趣。請看一看。藤藤んだんさん見なんし。藤新アイ。藤大于係得緊。藤有趣得了不得。

藤衆位諸閑采。藤妙極。藤いろ／＼のどを仕懸て。藤なるほど。おそれいつた物で御ごります。申ノ日本の人などには出來ませぬ事で御ざります。藤わつちやア。あぶなくてろくに見いせんわな。藤いつそおもしろかつたねへ。藤阿阿疲倦。藤多勞多勞。藤アレ見なんし。此人は鼻の下をいつそ撫でさつしやるよ。藤あれは今の輕業の高慢さ。日本ではあごの髭をなでるが。唐土では何ぞといふと。鼻の下のひげなでさ。藤けしからねへ。藤再喫酒。藤滿洲。藤沒道理。藤勉強。藤せんたい。つよい酒で御ざります。藤使賭氣飲了。好個海量。藤此等歡喜事。難再有了。藤アレきたねへ。此人は鼻くそをとつて着にさつし

やるよ。[團] あいのさけをの
んだら。又おどりをおどらせう。[善] 善
んな踊でござんすへ。[麿] 此此日本の
踊をおばへてといふが。それよりは
いつそこれが得手なかばちや踊がよか
ろうとおもつて。ふしも手も其まゝに
して。文句ばかりこつちの言葉に直し
て教て置たよ。[麿] 見たいもんだね。[麿] お
どらせて見せう。[麿] 崑崙奴来做戯文。
[團] 願旨。トまた立[麿] 什麼了。
[麿] 一味輕用心。學。日本小曲。[麿] 好
了好了。くろんぼろは立あがりておど
りやハバリヤ。麿内は三味せんをひく
へいさんのさまさの。そのさのさまは。
じしんさまさの。そのさのさまよ。[麿]
小曲差了。雪の柳の。その樹のさ
まは。如斯唱。[麿] いきのさまさの。
そのさのさまは。如此也。不差麼。

[麿] 元自差了。[麿] 大醉酩酊。舌頭也
不肯轉。且罷休了。[麿] 使得了。
[麿] モシ。ありやアしやみこ踊といひすじや
アおせせんか。[麿] 暹羅といふ國に。
甘波邪しやむろなどといふ國が類して
ある。其國から出たおどりだから。か
ほちや踊ともいふ。又しやむろ踊とい
ふべきを。皆人がいひ誤まつてしやみ
こ踊といふのさ。[麿] モシあの人の中
のぼち／＼白ひは。何でおざんすへ。
[麿] アリヤ。今夜灸をすへるはづで。
ごふんで点をおろして置たのさ。[麿] は
んにかへ。ばからしい。[麿] 阿阿爛醉如
泥。請免。請免。ト足をなげ出す拍子
これはしなり。なんぞ拭く物を。[麿] ハイ
[麿] 崑崙奴可惡。[麿] 國有罪有罪。請
免請免。[麿] 初始相會不得無禮。須要
小心。些。[麿] 應請恕。若サア。維

巾。[麿] 不要拭。ト鉢巾を引たくり。唐
越綿巾。[麿] 爲什麼。[麿] 要做盛烟袋
[麿] ヤあれを煙草入にしなすとき。
極どふしてねへ。[麿] 大方持いてつて
ぬはせるのだから。[麿] 這个雄妓十
分嫵致。忍耐不住。ト羞に後から。[麿] エ、
モリ。此人はいやらしい。よさつせへ
な。[麿] 手めへにはれたせ。[麿] すかね
へ。[麿] 吃驚了。扭轉身來。不要惱。
不要惱。[麿] アレしつらつこい。脊中に
鼠が居るはな。[麿] どれ出して見せや。
[麿] ヲくすぐつてへ。まだ子でおざん
す。[麿] モウ目があいたか。[麿] 什麼了。
[麿] ねづみの子で御ざんす。[麿] 請一看。
[麿] 見せろとよ。[麿] わつちやア嫌し。極
お目につけやな。[麿] アイ。新それにつ
た。[麿] どつちだ。[麿] 若たしか。こつち

ほうへ。○鼠兒在這裡。ト鼠をつかま

り酒をつけて。○酒ヲヤ。○休做没良心

的事。○美味とく。○新けしからねへ。

此人はくわじつたよ。○若これはとん

だ事で御ざります。○座エ、モウにくい

人だ。折角人がかわいがつて。飼つて

置く物を。ト泣聲。○断なく事はねへ。今

度おれがいのを持てきてやろうよ。

○断物事。動不動要癡呆。○断エ

くく。○若これはどふかしたそうで御

ざります。○断マア廊下へつれていくが

い。○断脊中をさすらつせへな。○若者

かをたくと。鼠の首。○断嘔吐。○断是醒

醒得緊。○若くびたまと鈴を喉へひつ

かけたそうで御ざります。○断硬磔咬

不碎。○断わつちやア胸がわるくなつた。

利いゝきびだ。いつを今ので死んで

しまへばいい。○断あまり酒がすぎた

から。鼠を食つたり。ふざけたりする

から。モウいつそ寐かすがよからう。

○断ホンニきついゑひよふだ。驚いろに

なりました。サアくつれて参りませう。

○断崑崙奴去房裡罷。○断多承厚款

感謝不盡。列位安置。○断サアく一所

に行かつせへ。ト手とりて。○断崑崙奴

這厠跟跟踏踏的去也。○断好笑。○断くろ

んばうで大笑ひをした。○断モウ何時だか。

○断九ツ半時だ。○断夜深了

○断我也倦了。○断角落頭房裡去

○断一覺也好。○断若者。○断さて今ばんはい

ろく。○断面白い事をみました。ちと彼

方へいらつしやりまし。○断よからう

見通しへおつれ申しや。○断なにさん。

ついでにそのたばこぼんをあつちへ持

て行なんし。○断アイ。○断那里那里。○断

サア御出なんし。○断是より三人共床廻り。○断内

造来り。○断新藤さん。ちよつと耳を出

しなんし。○断だれも居やアせず。なん

だ言やな。○断イ、エチ。またやりて衆や

何かどおきてゐるから。おいらんは後

に見あはせて来なんすとさ。そつとお

めへさんエそういつてくれろといひな

んした。○断ソリヤアそれでいゝから。ちよ

つと火を一ツ持て来てくりや。○断火が

ねへとへ。アイついでに茶もくんでき

いせうか。○断ム、それも一ぱい。○断汲

んできいせう。○断ト立て行。○断李踏天は奥の座敷

すを咄ふ聲。○断元的昆蟲猶雙飛。○断鳳蝶上下

〔系〕藤さん／＼。あのね。おいらんの客人が。さつきから。ニヤンヅウニヤンヅウと言はんしたかね。またいま大きな聲をして。何かおつせへすが。何の事だかちよつと御出なんし。〔藤〕ム、そりやアおいらんを呼べといふ事だ。〔系〕アレお聞なんし。何かいつそ大きな聲で。〔藤〕ドレ。蝶也亦何知榮有味。嗚呼俺不知趣他沒深情。〔藤〕ム、ありやア。退屈したから。きどすをうたふのだ。嫌な奴の。〔系〕うつちやつて置てもいいのかへ。〔藤〕ム、。〔系〕おやすみなんし。新造出て行。〔新〕サアおあんなんし。〔藤〕ありか／＼。〔新〕モシそれもうか唐音のやうだね。〔藤〕ナニ唐音ではカンキといふ。〔新〕モシどふぞわつちに。唐音をちと教へてくんなんし。〔藤〕すいぶん／＼。〔新〕さつきしなんした拳は。あんまり遠はね

へやうだね。アレをマア教へてくんなんし。〔藤〕アレもむつかしいのさ。ダリだの。ガレンだのロンジだの。サイナンドのとつて。急にやア覺へられめへ。〔新〕ナニほんとうのを教えてくんなんし。いつそね書付て。こんど持て来てくんなんし。〔藤〕持てきてやろう。其代りに手めへに無心がある。きひてくれるか。〔新〕なにをへ。〔藤〕おいらんに隠して。氣をやつてさせねへか。〔新〕アレわつちやアいや。〔藤〕いやな事はねへ。おれがあいかたは手めへだから。爰へ入て寐さねへけりやアならねへ。〔新〕アレサモッよしなんし。藤さん。しつぷかなア可。おりにて。〔藤〕から哥さん／＼。〔新〕アイ。〔藤〕廊下。〔新〕から哥さん／＼。〔新〕アイ。〔藤〕愛へちよつときなんし。〔新〕アイ。ト立て風の外にて。兩。〔新〕アノ香爐のかへ。〔藤〕そ人さやく。〔新〕アイ。ト新造は出て行。せんたんはあ

りを見て。内へはいり。夜着をまくつてぐつとねる。〔藤〕ヲヤ此あついに夜着をさかさに着なんし。何をそんなに腹を立なんして。挨拶もしなんせん。〔藤〕盗人たけ／＼しい。腹をたつた誤は。手めへの胸にある事だ。〔藤〕ナゼエ。わつちが胸に。どふも。〔藤〕ヲ、どふも言わけはあるめへ。〔藤〕ナゼエ。あるのさ。此中もいふ通り。ソレアノ客は画踏衣裳をねだろふといふ所だから。〔藤〕サキヤアガレ。画踏衣裳は。アノ髭むしやにさせるつもりだから。それで今夜狂言をかいてつり出した。是程手めへを思ふとは知らねへで。それにくつつゐて。〔藤〕よしなんし。それたによつて。あの客は何でもねへ事にあいそつかしをして。切てしめへやした。せんでへ。この比は。ぬしが氣があちになつたよ。つき合の。なんのといふは附たり。より合町に。おもしろい事でも出来たろ

う。麝もそんなら。寄合町よあいまちへいけば。おれを長棹ながさざにして。つき出してしまをふといふのか。麝もどふいへば。かういふと。ツリヤア。ぬしが邪心じやんといふ物だ。麝も邪心じやんだか。おんりやうだか。女の心はしれぬへ。麝もぐつと引よせ。コレぬしは。麝も氣きが透ちつたそふさ。麝もアイ氣きが透ちつたのさ。よくつもつて見なんし。ぬしが客きやくなら突出とつしゅつすの。長棹ながさざのといふ事こともおせへせうけれ共ども。かうして苦勞くろう氣兼きかみをして。人の目顔めがほをしのんで逢あふ中なかつじやアおせへせんか。ハテ突出とつしゅつす氣きなら。おむつさんといふおがさんの有あをしりつ。かうして。麝もかうしてどふした。麝も待まちなんし。たれか來た。ト夜着よがきの外ほかへ出でる。麝も誰だれだ。新あらたわつちでござんす。麝もそんならい。に。出でるををした。麝も其持そのもちてゐるのはなんだ。新あらたおいらんが此このせん香かうの匂におひをいやがり

なんすから。下の仏ぶつだんの蘭花香らんかうかうを持もていつてそつとすりかへてきいた。麝も唐人てんじんはモウ寐言ねごんでも言いていなんすか。麝もナ色いろ々の道具どうぐをかざつて。ふとんの上に待まちてゐなんした。折をから。リに。麝も白日はくじつ地等ちどう到幾時たうきやう。娘むすめ子こと。梅うめ檀たん婦人ふじん那な裡り去さ。娘むすめ子こと。吳哥ごと。聞きつけ。吳ご有何貴幹いふた。李り梅うめ檀たん那な裡り去さて來り。吳ご我わ也や不ふ知ち。李り藤哥とうごと。ト藤内とうないが座ざ敷しきへはいり

リをかゝる。あか。荷にをふきけす。荷に。ホイ。

跋

九州郭中五人不變窮變知氣の二人を
加へて七人一座の間違ひだらけも時に
あつても時とつての滑稽さ
らん其ころけいけいと鳥がう
東の人乃もろもろをうとく
実乃合の者著く羅はゆさふ支那
もろもろの風土の風俗もろ
と小菊れもろをばはんぞ孫が
かん隅の耳ふ張りしをゆへ丸山
あまふれもろひ机もひも
方ふ茶の誤りれはあうげをも
あらんも肩おしも言訳や
あらんもありふけを鋸屑も

跋
九州郭中の五人に變窮變知氣の二人を
加へて七人一座の間違ひだらけも時に
あつても時とつての滑稽ならん其ころけいけいと
鳥がなく東の人のはらに合せて空と實
の合の宿著く羅はおきに支那もろこし
さいた風土の風俗にざつと小菊のはな
をつまんで珍ふんかん鍋の耳に残りし
事を中は丸山唯まろかれとおもひ机に
向ひしも方々に筆の誤あれば御さげす
みもあらんかと肩おしみやら言譯やら
ちよつとしりへに此事を鋸屑もいへば
いふ

乙巳

唐土乾隆五十
日本天明五年
乙巳初春

唐來参和



唐土乾隆五十
日本天明五年

乙巳初春

唐來参和

唐來参和

狂言寫蛙集 全二冊
ムスコヒヤ 全一冊

狂詩選諺解 全一冊
新美人合自筆 全一冊

味唐珍解 全一冊
東海道狂歌名所集 全一冊

耕書堂 薦屋重三郎梓

江戸通油町